

問1 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため
2. 魏の強力な軍事力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
3. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
4. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため

問2 日本の弥生時代中期には、現在の千葉県茂原市に位置する宮ノ台遺跡から出土した「宮ノ台式土器」に代表されるような地域独自の文化が見られました。この日本の弥生時代中期と同じ頃、地中海周辺を中心とする世界ではどのような歴史的な動きがありましたか。（2023年 千葉県公立入試 類似）

1. ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。
2. エジプトで巨大なピラミッドが建設され、王の強大な権力が示されていた。
3. 中国で殷（商）が成立し、祭祀に用いるための精巧な青銅器が作られていた。
4. メソポタミアでハンムラビ王が法典を整え、周辺地域を統一した。

問3 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。（2023年 長野県公立入試 類似）

1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。
2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。
3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。
4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。

問4 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため
2. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため
3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため
4. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため

問5 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。
2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。
3. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。

問6 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった
2. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた
3. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた
4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

問7 福岡県などの遺跡から出土した、中央につまみがあり周囲に精密な文様が施された円形の銅鏡について、この道具が当時の社会で果たしていた役割として正しく述べているものはどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 光を反射させる性質を利用して、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした
2. 非常に硬い性質を持っていたため、山林を切り拓くための斧として全国で普及した
3. 身分を問わず、弥生時代の全ての人々が護身用の盾として日常的に持ち歩いた
4. 文字を刻んで記録を残すための記録媒体として、役所などで管理されていた

問8 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。
2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。
4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問2	答え 1 ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。	弥生時代中期の日本は、紀元前後を中心とした時期にあたります。この時代、地中海世界では都市国家から発展したローマが周辺諸国を征服し、広大な領土を持つローマ帝国として全盛期を迎えようとしていました。一方で、選択肢にあるエジプトのピラミッド建設や殷の青銅器文化、ハンムラビ王による統一などは、いずれも日本の弥生時代よりさらに数千年から千年以上前の出来事です。
問3	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問4	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとした。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問5	答え 1 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問6	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での取引が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問7	答え 1 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした	青銅器の一種である銅鏡は、当時の高度な技術によって精密な文様が施されており、その希少性から特定の有力な指導者の持ち物であったと考えられています。このような貴重な金属器を所有し、祭祀などで用いることは、指導者が超自然的な力や大陸とのつながりを持っていることを周囲に示すことになり、その地位の正当性を裏付ける役割を果たしていました。
問8	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。